



水と緑が魅せる
心豊かな
庭園都市おかやま
をめざして

岡山市都市ビジョン
新・岡山市総合計画



目次

基本構想	1
基本計画（前期）	11
第1章 序論	13
計画の策定にあたって	15
人口の概況と見通し	16
第2章 本論	17
1 多様で豊かな環境をいかす	19
1-(1) 水と緑の都市プロジェクト	22
1-(2) 自然との共生プロジェクト	24
1-(3) 環境先進都市プロジェクト	26
1-(4) 資源循環社会構築プロジェクト	28
2 街と田園のかたちを明確にする	31
2-(1) コンパクト市街地と田園の共生プロジェクト	34
2-(2) 生活交流都心創生プロジェクト	36
2-(3) 安全な都市基盤プロジェクト	38
2-(4) 人と環境にやさしい総合交通システムプロジェクト	40
3 安心していきいきと暮らせる岡山型福祉を組み立てる	43
3-(1) ユニバーサル社会プロジェクト	46
3-(2) 最適な健康医療システムプロジェクト	48
3-(3) 福祉の総合支援プロジェクト	50
3-(4) 安心の子育てプロジェクト	52
4 自立し自己実現できる人間力を育てる	55
4-(1) 岡山っ子育成プロジェクト	58
4-(2) 教育環境づくりプロジェクト	60
4-(3) 生涯学習プロジェクト	62
5 市民力で新しい岡山をつくる	65
5-(1) 安全・安心な地域づくりプロジェクト	68
5-(2) 未来につながる交流プロジェクト	70
5-(3) パートナーシップによる都市経営プロジェクト	72
6 岡山の強みをいかした産業を広げる	75
6-(1) 強みをいかした産業育成プロジェクト	78
6-(2) コンベンションシティ構築プロジェクト	80
6-(3) 安全で豊かな食産業プロジェクト	82
7 文化力で岡山の誇りを高める	85
7-(1) 魅せる歴史と文化プロジェクト	88
7-(2) 生活に文化を楽しむプロジェクト	90
7-(3) 岡山の光を発信するプロジェクト	92
第3章 区別計画	95
1 北区	98
2 中区	102
3 東区	106
4 南区	110
資料	115

基本構想

策定にあたって

1 策定の趣旨

平成21年（2009年）4月1日。岡山市は、政令指定都市として新たなステージに立ち、中四国の中枢拠点都市として歩み始めました。

一方、経済、情報、環境などの諸課題が世界的な規模で変動する中、我が国の政治、経済、行政のあり方も大きな変化を続けています。特に、人口減少と少子・高齢化、エネルギー問題に端を発する経済と生活の不安、地球温暖化、そして道州制の議論と地方分権化など、地方自治は、国や世界の動向と無関係では成り立たなくなっています。

そうした中で、岡山市は、政令指定都市が持つ自治権限の拡大と経営基盤の強化による自立度を高めながら、市民や民間事業者と協働して、安全・安心で持続可能な都市づくりを進めていこうとしています。

そのために必要となるのが、中長期にわたる都市づくりの目標を明示するビジョンを市民と民間事業者と行政とが共有することです。

この基本構想は、こうした時代の動向や政令指定都市への移行を踏まえ、概ね平成37年（2025年）を目標として、「めざす都市像」と、その実現に向けて市民と協働で取り組む「都市づくりの基本方向」を明らかにするものです。

2 未来を見つめて

(1) 少子・超高齢社会の到来

我が国では急速に少子・高齢化が進行しており、平成37年（2025年）には、65歳以上の高齢者が人口の3割を占める一方、15歳未満の人口は1割程度になると予測されています。また、総人口は、平成16年（2004年）の1億2,781万人をピークに減少に転じ、平成37年（2025年）には1億1,927万人となると予測されています。

岡山市は、人口増加率が比較的高く、平成19年（2007年）に70万人を超えて今後も増加傾向が続き、この構想の実現による社会増を見込むと平成37年（2025年）には73万人と想定されます。

しかしながら、確実に進行する少子・高齢化を前提とした社会を見通して、健康・医療・福祉の仕組みや生活スタイルから産業、都市の構造まで、社会のあり方を再設計することが必要となっています。

(2) 環境との共生

地球温暖化をはじめとした地球環境問題は、人類の生存基盤に関わる深刻な問題

として、その対策が国際的な枠組みで進められています。

そして、その解決には、先進国の経済活動や生活スタイル、BRICsの経済成長や南北間の経済格差など困難な課題を克服しうるための地球市民としての価値観の共有化が不可欠です。

岡山市は、吉備高原から瀬戸内海の沿岸まで、多様で豊かな自然環境に恵まれています。そして、百間川の築造や広大な干拓地の造成など、自然をよく知り、環境と共生しながら都市を築き上げてきた先人からの知恵と伝統があります。

自然と生命を敬い慈しみ、豊かな自然に抱かれながら四季折々の暮らしを楽しむ心を次代に継承する、環境と共生する先進的な都市づくりが求められています。

(3) 心の豊かさが重視される時代

戦後、右肩上がり続けてきた経済成長により、モノの豊かさや快適性を享受した反面、核家族化による家庭機能の低下や地域における人と人のつながりの希薄化をひきおこす中で、真の豊かさが問い直され、人間らしい生活と心の豊かさが求められるようになっていきます。

今求められている豊かさとは、人と人との温かいふれあい、安全・安心なコミュニティ、公平な自己実現の機会、人と自然との共生、質の高い医療・福祉や教育などであり、人々が快適にいきいきと暮らし、生活を楽しむことのできる舞台となるのが都市なのです。

岡山市は、先取の気性に富み、時代を先導する魅力ある先駆者を輩出してきました。そして、ボランティアやNPO活動、企業のメセナ活動等も旺盛で、地域組織の活動も活発であり、まちづくりに市民力や地域力が大きく貢献してきました。

地域の資源と人々の知恵を集め、心の豊かさと創造性を育む都市をつくっていくことが求められています。

(4) 求められる広域的な役割

岡山市は、中四国の交通の結節点に位置し、他都市にない地理的な優位性を持っています。また、健康・医療・福祉、学術・研究や教育などの分野で質の高い都市集積があることも大きな特色です。そして、人口160万人の岡山都市圏の中心都市として、中四国圏域の発展を先導する役割を果たしています。

地方分権が進む中で、政令指定都市岡山は、より自立した自治体として自己責任のもとに持続可能な都市づくりを進めるとともに、より一層広域的な役割を果たしていく必要があります。

岡山市は、広域交流の拠点都市として、中四国、さらに西日本圏域の発展とそこに住む人々の幸せに貢献することが求められています。

めざす都市像

1 岡山市のすがた

岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と日本海と太平洋をつなぐ南北軸の結節点に位置し、道路・鉄道・空路等の交通網が集中する中枢拠点機能を担っており、岡山県の県都として、また、人口160万の岡山都市圏の中心市として、圏域の発展を牽引しています。

人口は、約70万人で岡山県の3分の1強を占め、面積は、約790km²と同じく1割強を占めています。

地形は、吉備高原に連なる北部の丘陵地から瀬戸内海に面した平野部まで変化に富んでいます。市域を旭川・吉井川の2つの「大川」が貫流し、水と緑あふれる豊かな自然環境と温暖で晴れの多い気候や自然災害の少なさとが相まって、美しさと暮らしやすさを兼ね備えています。

古事記・日本書紀や造山古墳が語る古代吉備国の時代から水陸交通の要衝として栄え、近世には宇喜多氏による岡山城築城・城下町の形成や池田氏による新田開発などで現在の岡山市の基礎が築かれました。

明治22年（1889年）の市制施行により「岡山市」が誕生し、地理的な優位性と先人たちのたゆまぬ努力の上に、時代の変遷の中で一貫して地域の政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきました。平成8年（1996年）には中核市、そして、平成21年（2009年）には政令指定都市に移行しました。

2 めざす都市像

都市は、そこに暮らす人々が創り上げていくものです。主役は市民です。

そして、都市はそこに住み活動する市民の顔の投影です。ゆえに、私たち岡山市民の美しい心が、岡山を美しい街に創り上げていくのです。

また、都市づくりで重要なことは、先人たちが築いてきた歴史と文化をいかし、受け継いだものをさらに磨き上げ、新たな価値を創造することです。

この時に求められるのは、めざす都市の姿を明確にし、その実現に向けて、市民、事業者、行政などの都市づくりの主体が動き出すことです。

岡山市は、自然と共生する快適な生活が楽しめる都市です。

吉備高原の山並み、市街地周辺の操山・龍ノ口山などの緑に抱かれ、水量豊富な旭川、吉井川、そしてそれらの支流、用水がモザイク模様のように流れています。

また、古代吉備の時代から、鉄を手にし水陸交通の要衝という優位性をいかし、高い農業生産力により大和と匹敵する勢力を育み、発展してきました。そして、江戸時代に入ると、幾多の先人の英知により干拓・新田開発が進められ、水と緑の豊かな大地が形成されてきました。

岡山市は、教育を大切に作る都市です。

江戸時代の岡山城下には、藩営の学校があったほか、豪商の手により経誼堂という民営の図書館も設けられました。明治に入っても、このような教育・学習に対する高い意識が継承され、旧旭東園舎に象徴される幼児教育への積極的な取組や第六高等学校の誘致などが行われました。さらに戦後には、市民・県民の熱意に支えられて岡山大学が設立され、多くの優れた人材を輩出してきました。

岡山市は、福祉の先進的な都市です。

明治20年(1887年)には我が国最初の本格的孤児院が石井十次により創立され、さらに大正6年(1917年)には現在の民生委員制度のモデルとなった岡山県済世顧問制度が創設され、多くの人々が救済されました。

先駆的な民間福祉施設の実績にあらわれているように、こうした福祉の心が今に受け継がれています。

岡山市は、高度に医療が集積した都市です。

教育に対する高い意識と福祉を大切に作る心が結びつき、医療の先進性を育んできました。岡山藩医学館を前身とする岡山大学医学部と薬学部・歯学部、さらに隣接する倉敷にも医療・福祉系の大学が設置され、医療・福祉界において、優れた人材を全国へ輩出しています。そして、市内には多くの医療機関が集積し、最適な医療が取り組まれています。

これらの特性をいかし、岡山市のめざす都市像を定めます。

(1) 都市の形

明るく開放的な芝生、大自然の風趣風物を収めた自然と人の知恵が融合する名庭園「後樂園」。その作庭は、地域の資源と文化の豊かさを象徴したかたちと言えます。

豊かな水と深い緑という岡山の持つ特性をいかし、そこに暮らす人々が美しく心輝いていく都市を創造していきます。

水と緑が魅せる心豊かな庭園都市

を都市の形とします。

(2) 都市の使命

福祉と医療と教育、そして交通の要衝という岡山の持つ特性をいかした都市づくりを進めていきます。

高度な医療、先進的な福祉、伝統と厚みのある教育。これを総合化し、さらに力を高め、中四国、さらに西日本圏域の発展とそこに住む人々の幸せに貢献する都市を創造していきます。

中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市

を都市の使命とします。

都市づくりの基本方向

「めざす都市像」を実現するため、都市づくりの基本方向を掲げて推進していきます。

1 多様で豊かな環境をいかす

多様で豊かな環境は岡山市の誇りとすべき貴重な財産であり、自然との共生は都市づくりの基本です。

「庭園都市」を実現するため、自然を保全、再生するとともに、水と緑の都市回廊を形成し、美しく風格ある都市の構築をめざします。

そして、市民生活や都市活動のスタイルを積極的に変革し、環境先進都市を創り上げていきます。

2 街と田園のかたちを明確にする

都市的な利便性と自然の豊かさのどちらも楽しめる都市、それが岡山市のめざす「庭園都市」の姿です。

そのため、高次に集積する都市機能と文化性、居住性を備えた都心を創生するとともに、人と環境にやさしい交通ネットワークで都心と周辺の地域拠点を結び、バランスのとれたまちづくりを進めます。

また、市民の生活を守るため、災害に強い安全な都市づくりを推進します。

3 安心していきいきと暮らせる岡山型福祉を組み立てる

少子・高齢化が進む中、すべての人が安心していきいきと暮らせることは、都市の持つべき大切な条件です。

そのため、人々がお互いに尊重し合い、社会参加できる仕組みをつくとともに、健康と長寿を楽しみ、人間らしい生活の質を実感できるよう、健康と福祉の支援体制を整備します。

そして、ゆとりを持って子どもを産み育てることができるよう、子育て、子育てを社会全体で支えるまちをつくりまします。

4 自立し自己実現できる人間力を育てる

子どもたちが自立し、社会の中で自己実現できるためには、自ら学び考える力と他者と共感する心など美しい心を育てることが大切です。

そのため、家庭、学校、地域などが連携、協働し、子どもたちを育てていく仕組みをつくります。

また、市民一人ひとりが生涯にわたって心豊かな生活を送れるよう、多様な学習機会の提供やスポーツの振興など、市民の自己実現を支援する環境づくりを進めます。

5 市民力で新しい岡山をつくる

市民の力で新しい岡山をつくるために、地域団体、NPO、事業者など、様々な組織が協働、連携し、主体的に地域づくりを進めることが大切です。

そのために、岡山市は、情報公開と市民参加による市民協働の市政を推進し、効果的・効率的な都市経営を進めます。

さらに、国内外の都市との連携・交流の強化により、広域的、グローバルな視点で都市づくりを進めるとともに、政令指定都市として、広域圏の発展に一層大きな役割を果たします。

6 岡山の強みをいかした産業を広げる

地域経済の活性化のためには、都市の持つ強みをいかした産業政策が必要です。

そのため、岡山市の強みである健康・医療・福祉・環境・教育の都市機能集積と広域交通の拠点性をいかすとともに、戦略的にコンベンションシティを構築します。

さらに、多彩で恵まれた農産物と瀬戸内の海の幸をいかし、安全で付加価値の高い食産業の育成を図ります。

7 文化力で岡山の誇りを高める

都市の文化は市民の誇りです。そして、文化は市民の心を豊かにし、都市の品格を高めます。

文化を高めるために、市内に数多くある文化資源をいかし魅力的な文化空間をつくとともに、市民が身近な場所で豊かな文化を実感できる環境づくりを進めます。

さらに、本市の光り輝く資源に磨きをかけ、外に向かって発信します。

都市像の実現に向けて

めざす都市像の実現に向けては、市民と民間事業者と行政とが、ともに手をたずさえ、それぞれの役割を分担しながら取り組みます。

1 都市像実現に向けての方向性と事業実施の基本となる政策・施策を体系化

めざす都市像を実現するための方向性（7つの柱）は、変えることなく共有し堅持します。

7つの柱に沿って各分野ごとの事業実施の基本となる政策（24のプロジェクト）と具体的な事務事業の方策となる施策の体系は、基本計画で明らかにします。

2 市民と民間事業者と行政が協働して実現

都市像の実現へ向けては、市民、民間事業者、行政それぞれの活動の総合的成果を示す指標を設定することにより、目標を共有し、協働で事業を推進します。

また、自治の主役である市民がまちづくりに主体的な役割を担えるよう、開かれた市政を推進します。

3 新たな都市経営システムの構築を基本におく（P D C Aサイクルの構築）

計画に基づいた実行、評価、改善のプロセスを実施するP D C Aサイクルの構築を定着化させ、目標到達型の都市経営を推進します。